

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特徴などを紹介します。

【愛知森林管理事務所

豊田森林事務所

首席森林官 小竹 尚久

豊田森林事務所は、愛知県犬山市、瀬戸市、豊田市の北部岐阜県境に点在する八つの国有林二、九一三ハシ及び七つの公有林野等官行造林地を管理しています。

犬山市にある、犬山及び八曾国有林は犬山・八曾自然休養林として、瀬戸市にある瀬戸国有林は定光寺自然休養林として親しまれています。このため、来訪した皆様が安心して利用できるような林内の危険木処理や山火事防止パトロールを行っています。いずれの国有林も都市近郊林として多くの利用がありますが、道路沿線に位置することから不法投棄が絶えず、ゴミの回収に

時間をとられることが多く、残念な気持ちになることも少なくありません。しかしながら、来訪の皆様にご気持ちよく利用していただくためにも、進入禁止措置や不法投棄防止などを粘り強く呼びかけていきます。



国有林内に投棄された大量のゴミ



春先の森林交流館

定光寺自然休養林内には、平成十五年に建てた「森林交流館」があり、委託管理により運営され、森林と利用者をつなぐ役割を果たしています。館内には、展示物も多く、訪ねられた方からは、「このような景色の良いところに素晴らしい施設があったのですね」との感想も多々いただいているところです。是非多くの方に訪れていただきたいと願っています。



犬山国有林から市街地、木曾川を望む（中央に犬山城、右手奥に航空自衛隊基地）

■未来の担い手へのメッセージ
令和4年度から再任用職員として勤めています。現場にいと今もって知らないことも数多くあります。現場にいるからこそ、そうかと気が付けることは現場の強みです。是非、「現場を見て、考える」ことを養っていただければと願っています。



〈シリーズ「私の森語り」〉

シリーズ
「私の森語り」
もりかた

「自然の遊びを通じた共育」



こどもの森幼稚園
副園長 宮崎 温
「あっちゃん」と呼ばれています

■自己紹介

長野市生まれ。関東の大学を卒業後、地元長野市内に戻り、こどもの森幼稚園に就職。

現在は、こどもの森幼稚園で働 きながら、長年の自然保育経験を活かし、学生や保育者の皆様に実践的な自然保育の授業や講習を行っています。

■活動内容

こどもの森幼稚園は、昭和五十八年に六名の園児で内田夫妻が手造りの園舎で開設した「こどもの森幼児教室」が始まりで、日本の森のようちえん発祥の地であり、四十一年の歴史があります。平成十七年には、学校法人いづな学園こどもの森幼稚園として認可

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。



されました。また長野県が推進している信州型自然保育認定制度においても、特化型の認定を受けている幼稚園です。

長野駅から車で三十分程、標高一、〇五〇メートルの飯綱高原に位置し、周囲を山、川、森に囲まれた豊かな自然の中にあります。園庭には、自然のままの沢、林、野原があり、沢にはサワガニ、ホタル、カエル、ヤゴ等が生息し、林や野原には様々な季節の野の花が咲き、多くの生き物(カナヘビ、クワガタ、ヘビ、ハチなど)と共生しています。



緑に囲まれた中にある園



園庭で自由に遊ぶ子ども達



道草散歩の様子



雪の積もった園庭でソリ遊び

教育目標には、【豊かな自然の中で四季を感じながら遊びこむこと】【自分を大切に好きになるとに夢中になること】【対話の中で全ての存在を認め、命を大切にすることも】の三つを掲げています。

日々の園活動は、四季をはつきりと感じられる園庭での遊びを主軸としています。また、近隣の高原や森(戸隠高原や飯綱町)へ一日掛かりで出かける散歩があり、道草散歩を楽しんでいます。

■メッセージ

身近な自然(環境資源)を活かした保育を!

身近な自然を活かしながら、没頭して遊びこむことで、こどもの主体性、創造力、人間関係などが育っていきます。昨今、幼児期の遊びからの学びに多くの注目が集まり、例えば非認知能力(IQな

どで測れない内面の力)を育てることで、将来の生きる力の基礎を育むことができます。四十年前と変わらぬここ飯綱高原で遊びを主軸とした体験を大切にしていきたいです。

保育は人である!共育(共に育つ大人と子ども)

子どもの可能性や能力を引き出すためには、そこに関わる大人の存在が特に大切であると私は思います。大人だから、先生だからという考えではなく、大人も子どもと共に育つ中で一緒に笑い、学び、時に考えながら様々な問いを楽しみたいと思っています。

■連絡先

学校法人
いづな学園 こどもの森幼稚園
長野県長野市上ヶ屋
二四七一―二五五四

TEL: 0266-239-2731
FAX: 0266-239-2169
https://www.iizuna-gakuen.info/



いづな学園



こどもの森幼稚園の SNSはこちら

我が国最古のカラマツ人工林

浅間山カラマツ希少個体群保護林

設定目的

当該保護林内のカラマツは、江戸時代末期の嘉永三年（一八五〇年）頃に当地域を治めていた小諸藩によって植栽されたものと伝えられています。

現存するカラマツの人工林としては、我が国で最も古い造林地として学術的に貴重であるため、個体群を保護・管理しています。

地況・林況

長野・群馬県境に跨る浅間山（二、四九三㍍）南麓、標高約一、〇〇〇㍍の緩やかな斜面に位置しており、上層にはカラマツ、下層木にはヒノキやウラジロモミが生育しています。

シリーズ

中部の保護林(第43回)

所在地
長野県北佐久郡御代田町



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。



※詳細は、コードを読み込んでください。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第43回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介いたします。

「裏木曾」その七

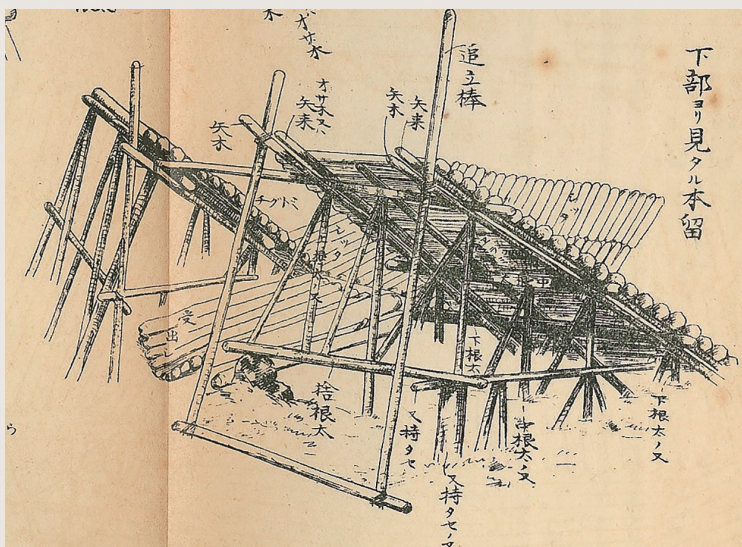
集材(ほさぬき)・留(まや)

木の伐採・造材・検尺が終わりますと、貴重な大材以外は斜面を利用して滑り落として運んでいきます。滑り落とすルートに木を集めることを「集材」「寄せ木」あるいは裏木曾では「ほさぬき」と呼びます。



大正時代初め頃の「ほさぬき」のイメージ
(「付知川に於ける材木伐出の沿革と絵解」より)

集めた木を山の斜面で集積・整理する場所として「留」(裏木曾では「まや」とも)が設けられました。これは運材ルート上の始点や区間ごとに設けられるもので、鉄道ならば駅に相当するものと言えます。



「留」(まや)の構造図
(大正5年帝室林野管理局発行「木曾御料林之造材運材」より)

傾斜地で木を集積するために、丈夫な木が
藤蔓で堅く結ばれたしっかりとした構造だっ

たようです。上から滑り落とされてきた木が飛び出さないように斜面に対して二十度から三十度の角度で逆勾配がつけられました。また、「まや」(留)から「まや」へと木を動かすことになるので、山の斜面での運材を「まやはかり」と呼ぶこともあったとのこと。

(上写真) 明治末頃、木曾での留(まや)の様子



(下図) 大正時代初め頃の裏木曾での「まや」
「付知川に於ける材木伐出の沿革と絵解」より

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかししの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、コードを讀み込んでください。



「国有林の地域別の森林計画」
縦覧のお知らせ

【計画課】

中部森林管理局では、森林法に基づき、管内の森林計画区（流域）別の国有林を対象として、「国有林の地域別の森林計画」をたてています。本計画の指針となる「全国森林計画」に即しつつ、地域の特性を踏まえながら、森林の整備及び保全の目標並びに伐採等の施業方法についての考え方を定めています。

本年度は宮・庄川、千曲川下流の二計画区において計画を樹立するとともに、神通川、中部山岳、伊那谷、木曾谷、尾張西三河、東三河の各計画区において計画を変更するため、計画書案の縦覧を行います（ご意見を募集しています（十二月六日まで）。詳細は局ホームページをご確認ください。
<https://www.rinyamaff.go.jp/chubu/press/kouhou/R6/keikaku/241107.html>



地方自治体への出向者等の
交流会を開催

【総務課】

十月二十三日～二十四日、民国連携の推進と若手職員の資質向上を図るため、林野庁から中部森林管理局管内の地方自治体への出向者、地方自治体から当局への出向者、他局から多様な勤務として当局に勤務している者及び多様な勤務を終え当局に戻ってきた職員との間で交流会を開催しました。

初日は、出向先での業務内容や他局に勤務して感じたこと、中部局に勤務しての感想等について意見交換しました。その後、北信森林管理署管内にて、国有林野の活用事例（貸付地管理）として貸付スキー場跡地、D材（枝条等）の有効活用事例として木質バイオマス発電施設「いびづなお山の発電所」を視察しました。二十四日は、木曾森林管理署管内の天然ヒノキ等の保全管理

「木曾悠久の森」、急傾斜地における架線集材による素材生産の現場視察を行いました。

交流会を通じ参加者からは、「国有林は民有林が求めるもの、民有林に波及できる林業を進めてほしい」、「民国の連携希望として、まだ採算の合わない新しい技術、民有林では行っていない技術を国有林で取り組んで検討会を開催してほしい」、「今後も密に情報共有しながら交流したい」、「人員不足がどこも深刻だが、林業に携わる公務員同士の協力体制や人間関係づくりが大切」、「出身局では見たことのない架線集材や木曾ヒノキ林を見るのができ大変興味深かった」といった意見がありました。

人材育成は大きなテーマであり課題です。職場の年齢構成も大きく変わる中、人の縦と横の繋がりは重要であり、今回の交流会は改めて人材育成について考える機会になりました。

編集長だより
(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

♪秋の夕日に照るやまもみじ〜♪暑さが長引いたせいで今年の紅葉（黄葉）は10日から2週間ほど遅くなったところが多かったとか。気温の変化も激しく、木々もとまどっていたのではないのでしょうか。各地にはまだ紅葉散策を楽しめるところもあります。

そして秋といえばキノコ（木の子）。今年は豊作となりキノコ狩りを楽しんだ方も多かったようです。当然ながら、食べられるキノコ以外（毒キノコ）も豊作なわけで、その選別は多くの先人の好奇心と探究心、そして少なからぬ犠牲の上に築かれたものです。先人の努力と苦勞と知恵を引き継いでおられる方々に感謝しつつ、道の駅に並べられたキノコ達を眺めていました。



架線集材による素材生産現場を見学する参加者

中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局
ホームページ

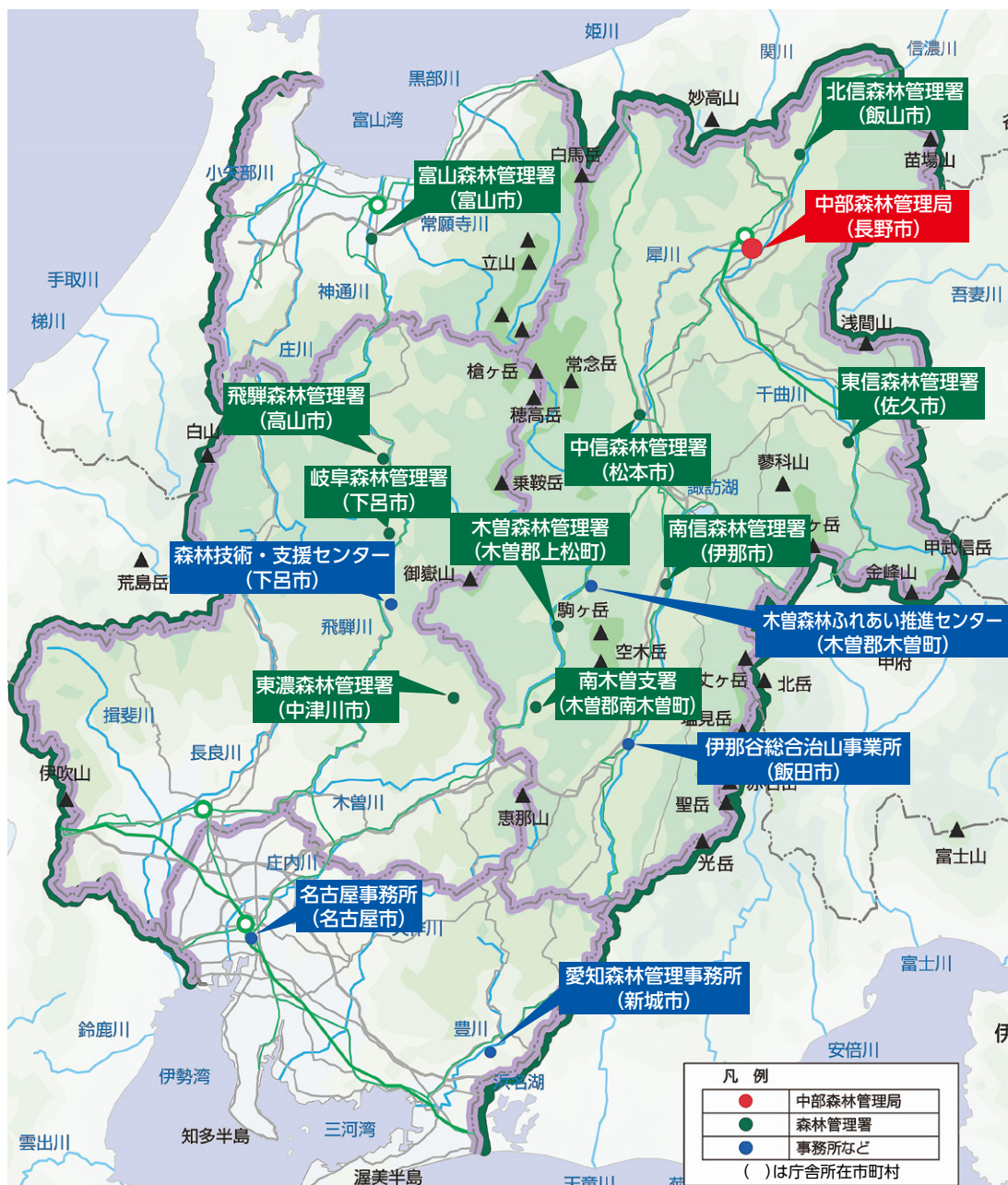


広報
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。